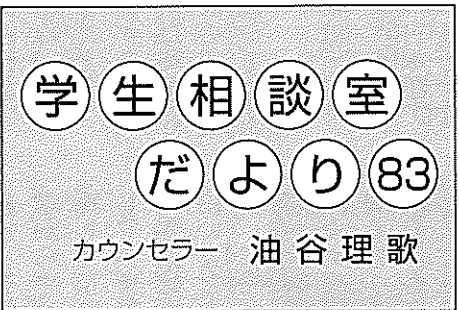


新春のお慶びを申し上げます。

年末年始は、ご家族で過ごされたでしょうか。ご家族が揃ってもお子さんは友達付き合いに忙しく殆ど話をしてくれないということもあるかもしれません。大学生の年代は、親から心理的な自立を果たす時期です。親に対してよそよそしくなったり、自分の考えを主張し反抗的になったりと、急な変化に驚いたり不満を感じることがあると思います。しかし、その過程を学生によく聞いてみると、親から離れていくことへの戸惑い、寂しさ、不安が混在しているのが分かります。それを親に悟られないよう強がりながら家族以外の中で自分の居場所を見つけようとして

まします。距離を置くことは、親の存在が重要でなくなったわけではありません。親との心の繋がりや確かなめながら少しずつ離れていこうとします。子どもが親に対して主張や反対意見を表明した時には、自立の一步と捉え、まずは受け止めることが必要です。

一方で、毎日のように親とメー



ルをする、友達より親に何でも相談するという学生もいます。

近年の子育ては、親子が長期的に濃密な関係を持つ傾向にあるため、「親離れ」「子離れ」が双方にとつてなかなか難しい課題となつていきます。多くの大学生にとって、友人関係を築くことは何よりも大事な体験と捉えています。

しかし、友人関係の中で自分の在り方を見つけ、居場所を作ることは容易なことではありません。親が友人のような役割を担うことで親といた方が楽だと感じ、自立の欲求が希薄になる傾向にあります。もちろん、親子関係が親密であることが土台となり、自立が促進されることもあります。子どもが自分の力で判断する自信を身につけられるように日頃は近づきすぎず離れすぎず見守り、本当に困った時に手を差しのべることが大切なかもしれません。相談室では、お子さんについてご家族からのご相談もお受けしています。お気軽にご相談下さい。